



JR 菊川駅
佐々木 誠
まこと
駅長

明治22年の開業以来、137年にわたり菊川市の玄関口としてまちの発展を支えてきたJR菊川駅。南北をつなぐ「自由通路」と新たな「橋上駅舎」が完成間近となっています。

その節目の年に駅長を務めるのが、佐々木誠さん。静岡市出身で、平成5年に東海旅客鉄道株式会社（JR東海）へ入社。運転士や車掌などの現場業務を経て、令和6年7月に菊川駅長へ就任し、まもなく2年を迎えます。

期待を背負っての赴任

佐々木駅長が着任した当時、菊川駅の工事はすでに始まっていました。関係部署との調整が本格化する重要なタイミングでの赴任。「会社からは『しっかりやるように』と送り出されました」と振り返ります。

現在、菊川駅で勤務する社員は6人。駅長として大切にしているのは、

社員が働きやすい環境づくりと、利用者が安全・安心に利用できる駅づくりです。

「長年親しまれてきた駅舎がなくなる寂しさもあります。しかしそれ以上に、新しい駅舎への期待感が大きいですね。利用者の方からも『オープンするの？』と声を掛けていただきます。私も本場にワクワクしています」と語ります。

5時間の大幅作業

南北自由通路は3月28日（土）から、駅舎は3月29日（日）から供用開始となります。

午前0時30分の最終電車から、5時30分の始発電車までのわずか5時間。この限られた時間で、旧駅舎から新駅舎への移行作業が行われます。

当日はJR東海社員や協力会社おおよそ100人体制で臨む一大プロジェクト。

みんなの想いで“満開”に。新しく生まれ変わる駅とともに

「大変な作業ですが、利用者の皆様に迷惑がからないよう、予定通り確実にやり遂げたいです」と力を込めます。

駅を“満開”にするメッセージ企画

新駅舎開業に向けて機運を高めようと、菊川駅と市が協働で企画したのが、市民参加型のメッセージ募集です。桜の花をかたどったカードに、新しく生まれ変わる菊川駅への期待や想いを書いてもらい、改札横に掲示しています。2月末時点でおおよそ400枚が集まり、駅構内はまもなく“満開”を迎えます。

寄せられた言葉の中には、新駅舎への期待だけでなく、駅社員や工事関係者への励ましの声も。



「本当にありがたく、日々の業務の励みになっています」と笑顔を見せます。メッセージの募集は3月27日（金）まで。「多くの方に参加していただき、新駅舎の開業と一緒に盛り上げてほしいです」と呼びかけています。

駅から、まちを元気に

「駅はまちの『玄関口』と話す佐々木駅長。今回のメッセージ企画以外にも、これまでさまざまな企画を市や観光協会とともに実施してきました。「多くの人に菊川市を知ってほしい。市内に足を運んでほしい。駅からまちを盛り上げたいんです」と、その想いを語ります。

4月4日（土）には、新駅舎開業を記念した「さわやかウォーキング」も開催予定。他駅でもPRを行い、広く菊川の魅力を発信します。

地域とともに育てる駅へ

佐々木駅長は「地域の皆さんと一緒に菊川駅を育てていきたいと思っています。まちの中心として、多くの人が行き交う場所になりたいです」と目指す姿を語ります。

「菊川市が発展することが一番。菊川市の玄関口として恥ずかしくない駅になるよう、社員一丸となって取り組んでいきます」と力強く結びました。

新しく生まれ変わる菊川駅。まもなく迎える春の訪れとともに、駅長と社員、そして市民の想いが咲き誇ろうとしています。

菊川駅南北自由通路整備事業の詳細は、市ホームページ（下記）をご覧ください▼

